

平成18年3月期 第3四半期財務・業績の概況（連結）

平成18年2月15日

上場会社名 名港海運株式会社 (コード番号：9357 名証第2部)
 (URL <http://www.meiko-trans.co.jp>)
 代表者 役職名 取締役社長 氏名 三輪 尚治
 問合せ先責任者 役職名 常務取締役 氏名 近藤 久忠 (TEL (052) 661-8134)

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 (内容)
 法人税等の計上基準等に一部簡便的な方法を採用しております。
 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有
 (内容)
 当連結会計年度より「固定資産の減損に係る会計基準」を適用しております。
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成18年3月期第3四半期財務・業績の概況（平成17年4月1日～平成17年12月31日）

(1) 経営成績(連結)の進捗状況 ・記載金額は表示単位未満切捨て、比率は四捨五入しております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年3月期第3四半期	44,096	7.4	3,733	30.2	4,136	24.3	1,899	15.3
17年3月期第3四半期	41,042	7.8	2,867	-	3,328	-	1,647	-
(参考) 17年3月期	54,868		3,523		4,836		2,366	

	1株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
18年3月期第3四半期	60	62	-	-
17年3月期第3四半期	52	59	-	-
(参考) 17年3月期	74	29	-	-

(注) パーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。

[経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期におけるわが国経済は、企業収益の改善や設備投資の増加に加え、個人消費の回復などにより、景気は回復基調で推移しました。

当社グループが営業の基盤を置く名古屋港の港湾貨物は、輸送用機器、石油類などを中心とした輸出入貨物は共に増加となりました。

このような状況のなか、当社グループでは、取扱貨物量の増加を図り、業務の効率化・合理化や諸経費の削減に取り組み、業績の向上に努めました。

これらの結果、当第3四半期の売上高は、440億96百万円（前年同期比7.4%増）となり、営業利益は37億33百万円（前年同期比30.2%増）、経常利益は41億36百万円（前年同期比24.3%増）、四半期純利益は18億99百万円（前年同期比15.3%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

港湾運送及びその関連事業の売上高は391億61百万円（前年同期比7.4%増）、営業利益は34億7百万円（前年同期比27.1%増）、倉庫・賃貸事業の売上高は49億35百万円（前年同期比7.4%増）、営業利益は3億26百万円（前年同期比73.8%増）となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
18年3月期第3四半期	77,106	52,302	67.8	1,650 55
17年3月期第3四半期	70,322	48,217	68.6	1,539 95
(参考) 17年3月期	73,344	49,414	67.4	1,577 61

【 連結キャッシュ・フローの状況 】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年3月期第3四半期	1,190	1,719	282	9,985
17年3月期第3四半期	1,787	2,168	526	10,944
(参考) 17年3月期	3,530	4,143	452	10,797

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

(財政状態)

当第3四半期の総資産は771億6百万円となり、前連結会計年度末に比べ37億62百万円の増加となりました。主な要因は、売上増加により売上債権が増加したこと、また、株式市況の回復により投資有価証券ならびにその他有価証券評価差額金が増加したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期の連結キャッシュ・フローは、営業活動のキャッシュ・フローの増加、投資活動のキャッシュ・フロー及び財務活動のキャッシュ・フローの減少、これに現金及び現金同等物に係る換算差額(1百万円の減少)があり、全体で8億12百万円の減少となり、現金及び現金同等物の期末残高は99億85百万円となりました。

営業活動からのキャッシュ・フローは11億90百万円となりました。これは売上債権の増加が8億90百万円あったことが主な要因です。

投資活動により支出されたキャッシュ・フローは17億19百万円となりました。これは、有形固定資産の取得による支出が10億17百万円、投資有価証券の取得による支出が14億10百万円あったことが主な要因です。

財務活動により支出されたキャッシュ・フローは2億82百万円となりました。親会社による短期借入金による収入4億円があった一方で、配当金の支払額が5億38百万円あったことが主な要因です。

3 . 平成18年3月期の連結業績予想 (平成17年4月1日～平成18年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり 予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	56,900	5,250	2,400	74 89

[業績予想に関する定性的情報等]

業績予想につきましては、平成17年11月16日に公表いたしました予想に変更はありません。

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。